

授業科目名	基礎解剖学Ⅲ	担当教員	教授 大谷 浩
開講年次・学期	2年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	8時間
授業概要			
本科目では、1年次に学んだ顕微鏡レベルの構造を学ぶ基礎解剖学Ⅰ（組織学）、並行して開講される肉眼レベルで主に運動機能に関わる構造を学ぶ基礎解剖学Ⅱ（骨学、筋・末梢神経学）、ならびにヒトの身体がどのようにしてできてくるかを学ぶ人体発生学とあわせて、肉眼レベルでいわゆる植物機能に関わる内臓（器官）の構造について学ぶ。器官は独立してあるのではなく、互いに関連する器官とグループをなして「器官系」を構成し、系全体としてその器官系に特徴的な循環、呼吸、消化などの機能を実現している。 引きつづき5月初めから行われる解剖学実習は、胸部、腹部、上肢など部分ごとに学ぶため（局所解剖学）、全身にわたって存在して機能する器官「系（システム）」についての理解（系統解剖学）が時として難しくなる。したがって、本科目では、人体の構造を系統的に系（システム）」として理解するため、基礎知識となる循環器系などの器官系、内臓・器官と、それらを容れるスペースである「体腔」について、講義により学ぶ。1年次に基礎解剖学Ⅰで学んだ組織レベルでの各器官の詳細を復習しつつ、全体と部分の密接な機能・構造的な関係を理解することが、解剖学実習において「真の教科書」たるご遺体からより深く広く学ぶための重要な基礎となる。			
G I O（一般目標）			
人体を構成する器官系の種類と各器官系を構成する内臓（器官）と、器官の間および器官系の間における構造と機能の関係を学び、人体の構造を機能との関連において系統的に理解できる能力を養う。			
S B O（行動目標）			
・人体を構成する器官系と各器官系を構成する内臓（器官）を系統的に説明できる。 ・各器官系内の器官の間の関係を組織学的構造および機能と関連づけて説明できる。 ・器官系間の関係を機能と関連づけて説明できる。 ・体腔の区分と臓器の配置を機能と関連づけて説明できる。			
成績評価の方法			
小テスト、筆記試験を総合して評価する。			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
基礎解剖学Ⅰ・Ⅱとも関連させつつ、解剖学教科書などを適宜紹介する。			
オフィスアワー			
適宜			